

なぜ勉強が必要か？・・・勉強すると何が変わるのか？

アップル社のカリスマ経営者だったスティーブ・ジョブズは、経済的理由で大学をすぐ中退しました。しかし、勉強を続けたくて友人の寮にもぐり込み、自分の好きな講義を内緒で受けたといいます。彼はその大学でカリグラフィという美しい文字を書く授業に感動し、一生懸命勉強したといいます。

これは美術のレタリングという授業と同じと考えていいと思います。

その美意識がiphoneやipadなどの美しいデザインの製品に生きる

こととなりました。美術は音楽とともに美的な感性を豊かにします。



国語は情操を育てるとともに、日本語がすべての勉強の基礎となります。コミュニケーションツールとしてことばの役割は重要です。数学が苦手な人で、国語力がなくて問題の意味が理解できていない人など結構いるといいます。もちろん日本語の多様な表現を通しての感受性も高まります。

社会は自分の生活を知る基盤になります。地理、歴史は生活の横軸、縦軸の学習です。

数学は何のために勉強するのか。複雑な世の中では $1 + 1 = 1$ であったり $1 + 1 = 3$ であったりすることもあるかもしれません。 $1 + 1 = 2$ は数学での決まり事です。 $1 + 1 = 2$ と定義することで、ルールの中での約束事として次の段階に進めます。それが論理的な思考力を育てます。弁護士は数学を使わなくとも論理的な思考力が必要です。

理科は、不思議だと思い、観察して確かめ、考えること、謎を解く探求心を育てます。

その他の教科も大切な勉強ばかりです。各教科それぞれに将来に生きてくる大切な意義があります。そんな本質的な意義を知りたいければ、時間のある時に、教科の先生に「なぜ先生はこの教科に惹かれたのですか？」と質問してみるといいでしょう。きっと答えが返ってくるはずです。「学ぶ」ということはすべての人にとって必要です。

勉強すると何が変わるのか？勉強は、景色を見るとき、自分の立ち位置の高さだと思ってください。

土台が高くなればなるほど遠い世界が見える。運動場で見える景色と高千穂峰の頂上から見える景色は拡がり違います。高いところで見た方が、自分の進みたい世界が無限に拡がるのです。学校で教科書を使って学ぶことだけでなく、体験や経験を通して学ぶことや、人の経験を追体験する読書という方法もあります。ぜひ充実した学びを身に付けてほしいと願います。